

図書館の舞台裏

貸出・返却受付

図書館の顔として、利用者の皆さんと接しています。探している本がない時は、リクエストも受け付けます。



展示コーナー作り

月替わりで更新。テーマやラインナップは旬の話題や担当者の好みで選んでいるとのこと。見ごたえあります!



地域に根ざした図書館づくり

地域の図書館は、みんなの身近にある知の宝庫。古くから伝わる貴重な歴史的資料から最新の情報誌まで、地域の情報が集約されています。りんご関係の資料やローカル誌など、地域色溢れる蔵書が充実しているのも弘前ならではの魅力です。

運営の中心を担うスタッフの仕事

利用者の皆さんに充実したサービスを提供するため、図書館ではさまざまな業務を行っています。

※このほかにも、購入する本の検討やイベントの企画・運営など、いろいろな業務があります。

蔵書管理

新刊が届くと、ラベル貼り、押印、カバー掛けなどを手作業で行い、古い蔵書は地下の書庫(写真下段)に移動します。本が破損・汚損された場合、修理できるものは丁寧に直します。

お願い
本が破損した場合は自分で修理せず、返却時に破損した旨をお知らせください。

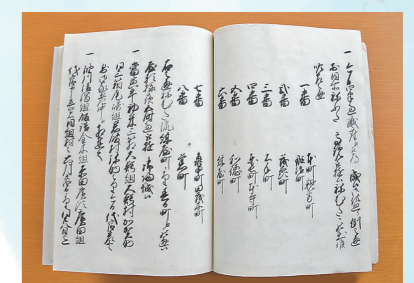
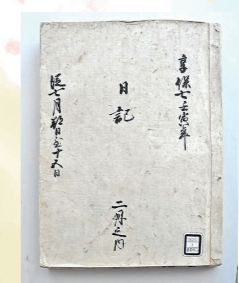


移動図書館の運行

移動図書館「はとぶえ号」を市内各所で運行しています。学校に停まる日は子ども向けの本を増やすなど、ラインナップにも気を配っています。



▲貴重な歴史資料の原本を保管している書庫。講座での見学会など、特別な機会の時だけ公開している。



▲ねぶたまつりの最古の記録が残る「弘前藩庁日記」原本。1661(寛文元)年から約200年間に渡って弘前城と江戸藩邸の出来事が記された日記で、合わせて4,534冊にのぼる。



▲りんごの本を集めた「りんご図書コーナー」



▲弘前市内やその近郊のローカル誌



▲弘前を学ぶ「刊(まんじ)学コーナー」



弘前大学児童文化研究部 KIDS'

おはなし会を支えるボランティアの力

おはなし会の運営に、ボランティアの協力は欠かせません。おはなし会に協力している団体の一つにお話を聞きました。

私たち「弘前大学児童文化研究部 KIDS'」は、子どもたちを対象に、読み聞かせやクラフト教室、人形劇などの活動を行っています。所属メンバーは学部を問わず「単純に子どもが好き」という学生、教育関係や医療関係などの進路のため「子どもに慣れたい」という学生など、さまざまです。おはなし会には、メンバーが各自で絵本を選び、練習してから臨んでいます。絵本を選ぶ時は、絵柄やキャラクターがはっきりと分かりやすいものを意識しています。絵本を読む時も、子どもが本に集中できるように、視線が合わないようにする、声色や間の取り方に変化を付けるなど、自分なりに工夫しているんです。普段の学生生活では子どもと

接する機会があまりないので、最初は手探りですが、活動が続けるうちに子どもの興味の引き方、関わり方が少しずつ分かってきます。始めはママにべったりで本に見向きもしなかった子が、おはなしにだんだん興味を持って夢中になってくれると、すごく嬉しいですね。おはなし会の後は必ず反省会をしています。「次はこうしよう」という気づきが毎回あります。これからもより良いおはなし会ができるよう、活動を続けていきたいです。



弘前のこと、もっと深く知りたい!

そんな時は相談できます! レファレンスコーナー

レファレンスコーナーでは、利用者の皆さんが調べたいことに対して、図書館の図書や資料を用いた回答、または答えに近づけるヒントを提供しています。調べる内容は、弘前藩に関すること、市内の地名の由来、弘前公園の歴史、自分の先祖に関することなどが多くあります。例えば、「弘前藩庁日記」には約200年分の当時の天候が毎日記録されていることから、気象や地震の研究機関に資料提供をしたこともあります。調べた結果を回答する時は、そのまま解決できることもあれば、さらに深い質問が返ってく

ることもあるので、どんな反応があるか楽しみにしています。私たちレファレンスコーナーの回答が皆さんの調べ物の一助になれば幸いです。市民の皆さんの中には、探している答えが見つからない時、諦めてしまう人がいるかもしれませんが、質問できる場所があることをぜひ知ってほしいと思っています。「古文書を読んでほしい」といった依頼や、漠然とした質問にはお答えできませんが、自分なりに手がかりを探した上で、ぜひご相談ください。



レファレンスコーナー担当 竹内勇造 主事

古文書をネットで調べるなら

「おくゆかしき津軽の古典籍」ホームページ

弘前図書館所蔵の絵図や古文書をインターネットで公開しています。「おくゆかしき津軽」で検索するか、QRコードからアクセスを。

